

# 「次世代の情報セキュリティ政策に関する研究会」中間報告書(案)のポイント

2008年4月3日

ICTは国民生活や様々な社会経済活動の基盤であり、今後も我が国の経済成長のカギ。



安心・安全に利用できるICT利用環境の整備が不可欠。

### 【昨今の状況】

#### ◆ マルウェア感染手法の巧妙化・高度化

※マルウェアとは悪質なソフトウェアの総称

→犯罪の組織化

- 正規のWebを閲覧しただけで、マルウェアに感染
- 特定の組織をターゲットにしたスパイ型メール等、ソーシャルエンジニアリングの高度化、被害の局所化

#### ◆ 利用者は、ボット等によって踏み台にされると、被害者となると同時に、加害者となる可能性 など

### 【コビキタスネットワーク社会 (近い将来)】

#### ◆ 情報家電等、様々な情報通信機器がネットワークに接続、利用者も増加

→数の爆発的増大

#### ◆ 様々なサービスが提供

→流通する情報の種類、量が増加

#### ◆ OS等のソフトウェアの共通化、通信経路の多様化等により、被害が広域化する可能性

#### ◆ 新技術の導入により、想定していない脅威が発生する可能性 など

#### ◆ 利用者による情報セキュリティ対策の徹底が必要

#### ◆ しかし、利用者個人に全てを委ねるのも難しい

→「永遠のビギナー」の存在

「永遠のビギナー」とは、情報セキュリティ対策に対する意識やスキルが必ずしも高くないと考えられる利用者

国、電気通信事業者、サービス提供事業者、機器製造事業者等、全ての関係者が連携した情報セキュリティ対策を強化することが必要

## 【重点的に検討・実施すべき主な項目】

### ○ 利用者を取り巻く環境における情報セキュリティ対策の徹底

- ・ 正規のWebを閲覧しただけで、マルウェアに感染するなど、感染手法が巧妙化・悪質化
- ・ 利用者は、ボット等によって踏み台にされ、自らが被害者となると同時に、他人に被害を及ぼす加害者となる



- ・ ICTサービスの多様化により、より利用者層（高齢者、若年者を含む）が広がる期待
- ・ 利用者の多くは、情報セキュリティ対策に対する意識やスキルが必ずしも高くないと考えられる「永遠のビギナー」



被害が爆発的に広がり、ICTの健全な発展に影響する可能性大



マルウェアを配布するサイト等への利用者の通信を制限し、不要なマルウェア感染を未然に防止するため、信頼性の高い「危険なWebサイトに関するリスト」（レピュテーション・データベース）の構築・運営方法を実証し、当該レピュテーション・データベースを利用して電気通信事業者が取り得る対策に関するガイドラインを検討

その他、以下の取組の実施が必要。

- ・ 利用者における対策徹底に向けた、継続的な普及啓発
- ・ マルウェア感染等により不具合が生じた場合に、迅速に対処するためのユーザサポート体制の充実

## ○業界横断的な検討体制の整備

ユビキタスネットワーク社会において、

- ・情報家電等ネットワークに接続される端末数、利用者数、情報量等が爆発的に増加、
- ・通信経路の多様化やOS・ソフトウェアの共通化による被害の広域化する可能性、
- ・感染手法の更なる巧妙化・悪質化、現在想定していない脅威が生じる可能性 等



ICTサービスの提供に関係する主体が増加し、また複雑に関連する状況となることから、  
個々の関係主体の情報セキュリティ対策に係る責任範囲、コスト負担の在り方等が不明確になる



電気通信事業者、サービス提供事業者、端末機器製造・販売事業者、情報セキュリティ対策ベンダー  
等が業界横断的に参加し、継続的に情報セキュリティの課題及びその対策、各主体が担うべき領域、  
その連携策等について検討する体制を整備

その他、以下の取組の実施が必要。

○産学官連携による先進的な研究開発の実施

○実効性のある情報共有体制の充実

(参考) これまでの検討状況及び今後の予定

